

# 実施報告書

## ■ 1) プロジェクトの概要

### (1) 目的

東日本大震災の影響で、沖縄に避難している子育て中の方々へ、NPO や企業が編集・発刊した子育て支援本を無償で配付することで、沖縄での生活に役立ててもらおう。どの市町村に在住・滞在していても受け取りやすいよう、全市町村社会福祉協議会の窓口で配布する。また社協の持つ地域や相談等の情報提供も含め、きめ細かな生活支援につなげることを目的とする。NPO、企業、社協がそれぞれの得意分野を持ち寄って実施することで、より効果的な支援となることをねらいとする。

### (2) 配付対象

東日本大震災で地震、津波、原発事故で被災したり、その影響を受けて、沖縄に避難されている方で、子育て中の方や妊娠中の方とご家族。被災県に限らず対象とする。なお、一部の書籍・資料については、子育て中以外の方も対象とする。

(3) 配付期間： 2011年6月27日～9月30日 約3カ月間

(4) 配付方法： 沖縄県・市町村社会福祉協議会、NPOにて配付。

(5) 実施主体

- ・NPO 沖縄子育て情報ういず!
- ・(有) ボーダーインク
- ・社会福祉法人 沖縄県社会福祉協議会
- ・FMおきなわ
- ・株式会社東洋企画印刷
- ・NPO バスマップ沖縄
- ・県内各市町村社会福祉協議会
- ・一般社団法人つなぐ光

協 力

## ■ 2) 配付した人数 215名 (うち子育て中の方:183名)

## ■ 3) 市町村別配付状況 ・以下の25市町村で利用があった。

□表1 市町村別配付状況

地域	No	市町村名	配付数	内子育て中の人	地域	No	市町村名	配付数	内子育て中の人	
北部 19名	1	今帰仁村	1名	1名	南部 及び 周辺離 島 129名	14	那覇市	86名	84名	
	2	本部町	5名	5名		15	豊見城市	18名	6名	
	3	名護市	11名	11名		16	糸満市	8名	6名	
	4	恩納村	1名	1名		17	八重瀬町	3名	3名	
	5	金武町	1名	1名		18	南城市	10名	10名	
中部 42名	6	うるま市	8名	5名		19	与那原町	2名	2名	
	7	沖縄市	4名	4名		20	南風原町	1名	0名	
	8	読谷村	5名	5名		21	久米島町	1名	1名	
	9	北谷町	4名	3名		宮古 ・ 八重山 20名	22	宮古島市	9名	4名
	10	北中城村	1名	1名			23	石垣市	9名	4名
	11	宜野湾市	4名	4名			24	竹富町	1名	1名
	12	西原町	7名	4名			25	与那国町	1名	0名
	13	浦添市	9名	7名	9名	26	県社協	9名	9名	
■合計：215名、うち子育て中の方183名					※必ずしも、その市町村に在住とは限らない					

#### ■ 4) 書籍・資料の配付数

□表2 書籍・資料別配付状況

	提供団体	書名	市町村社協	NPO※	合計
①		『地元ママが作った子連れで楽しむ沖縄 特別編集号』	187 冊	2 冊	189 冊
②	沖縄子育て情報ういず!	『家族で行きたいおいしいお店』	197 冊	3 冊	200 冊
③		『ういず! 幼稚園BOOK 2009年版』	120 冊	11 冊	131 冊
④	(有)ポーターインク	『ponpon (ポンポン) おきなわマタニティ & 子育てお役立ちブック』	167 冊	20 冊	187 冊
⑤		『ハッピーアイランドの本8』	201 冊	20 冊	221 冊
⑥	バスマップ 沖縄	『バスマップ中南部版』『バスマップ北部・離島版』	192 冊	20 冊	212 冊

※避難してきた方を直接支援している NPO (一般社団法人つなぐ光) への委託分

#### ■ 5) 利用者アンケートより

(1) アンケート配付数 : 215 名      うち子育て中の方 : 183 名

アンケート回答者 : 144 名      回答率 70.0%

うち子育て中 : 132 名 (妊娠中の方 3 名含む)、子ども : 215 名

(2) 出身県 : 福島県、宮城県以外に、東京都を中心に関東地域からの避難が多い。

福島県、宮城県から来た人は全体の 47.2%、関東地区よりきた方は 49.3%である。

□表3 出身県別

都道府県名	利用人数		都道府県名	利用人数	
青森県	1 名	47.2%	千葉県	10 名	↓
宮城県	24 名		東京都	38 名	
福島県	44 名		神奈川県	5 名	
茨城県	2 名		被災地以外 県名不明	1 名	
栃木県	6 名		無記名	3 名	
群馬県	1 名				
埼玉県	9 名	49.3%	■合計 : 144 名 (100%)		

(3) 被災の状況 : 罹災・避難証明の対象外の方が 61.1%を占める。

□表4

被災の状況	人数 (割合)	備考
・罹災・避難証明の対象	53 名 (36.8%)	福島 32、宮城 15、栃木 3、千葉 1、不明 2。
・対象外 (一部損壊を含む)	88 名 (61.1%)	東京 37、福島 11、千葉 9、埼玉 9、宮城 9、神奈川 5、他。
・不明	3 名 (2.1%)	
合計	144 名 (100%)	

(4) 子育ての状況 :

- ・就学前の子どものいる世帯が回答者の 78.5%、乳幼児のいる世帯は回答者の 54.9%を占める。
- ・中学生や高校生のいる世帯の 75.0%が、小学生以下の弟妹のいる世帯である。
- ・就学前の子どものいる世帯の 69.9%、乳幼児のいる世帯の 74.7%が罹災・避難証明対象外であり、福島県、東京都からの避難が多い。

□表5 子どもの年齢状況別

※兄弟姉妹などで重複している世帯あり。

子育ての状況	回答数 (割合※1)	備考
・乳幼児のいる世帯	79 (54.9%)	就学前の子どものいる回答者は113名 (78.5%)
・3~5歳のいる世帯	53 (36.8%)	
・小学生のいる世帯	41 (28.3%)	小学生以下の弟妹のいる世帯は6世帯
・中学生のいる世帯	7 ( 4.9%)	
・高校生のいる世帯	1 ( 0.6%)	

※1: アンケート回答者144名に占める割合

□表6 子どもの年齢別・被災状況別

子育ての状況	乳幼児のいる世帯 : 79 (100%)	3~5歳のいる世帯 : 53 (100%)	小学生のいる世帯 : 41 (100%)	中学生のいる世帯 : 7 (100%)	高校生のいる世帯 : 1 (100%)
罹災・避難証明有	19 (24.1%) 就学前の子どものいる回答者113名中、32名 (28.3%)	20 (37.7%)	22 (53.7%)	6(85.7%)	1(100%)
対象外	59 (74.7%) 就学前の子どものいる回答者113名中、79名 (69.9%)	32 (60.4%)	18 (43.9%)	1 (14.3%)	—
不明	1(1.3%)	1(1.9%)	1(2.4%)	—	—
出身県	東京 29、福島 16、千葉 8、埼玉 6、宮城 5、栃木 5、茨城 2、群馬 1	福島 17、東京 14、宮城 11、千葉 4、栃木 3、埼玉 1、神奈川 1	福島 17、宮城 13、東京 6、埼玉 3、群馬 1、神奈川 1	福島 5、宮城 1	宮城 1

(5) 滞在期間 : 「当面住む予定」という回答者が 72.2%を超えている。

□表7 滞在期間について

滞在期間	人数 (割合)
・当面住む予定	104 (72.2%)
・1~2カ月を予定	17 (11.8%)
・1カ月以内	3 (2.0%)
・永住	1 (0.7%)
・未定	19 (13.2%)
合計	144名 (100%)

(6) 移動手段について : 51.4%の方が移動手段を持たない。

□表8 移動手段について

滞在期間	人数 (割合)
・自由に使える車あり (レンタカー含む)	55 (38.2%)
・バイク・自転車あり	7 (4.9%)
・ない	74 (51.4%)
・未記入	8 (5.6%)
合計	144名 (100%)

(7) 今後、必要な支援 (複数回答可)

・「①子どもの保育・学校」「②就労」「③友達・仲間づくり」の順で高い。

①子どもの保育・学校について

小学生以下の子どもがいる世帯においては、どの年齢状況においても、最も高い割合である。また、被災状況別では、罹災・避難証明対象外の方のニーズが高い。これは、対象外の世帯の7割近くが就学前の子どもがいるためだと考えられる。

②就労について

回答者の7割、9月以降については全員が「当面住む予定」という状況と関連して、「就労」は大きな課題となっていると考えられる。「3～5歳のいる世帯」「中高生のいる世帯」「罹災・避難証明対象世帯」で高い割合となっている。自由記述にもあるように、「働きたいけど子どもの預け先がない」という状況が読み取れる。

③友達・仲間づくりについて

小学生以下の子どものいる世帯、罹災・避難証明の対象外の方の数が多い。

□表9 必要とされている支援について (複数回答可)

	人数 (割合※1)
①子どもの保育・学校	79 (55.9%)
②就労	64 (44.4%)
③友達・仲間づくり	64 (44.4%)
④移動手段:	53 (36.8%)
⑤住まい	53 (36.8%)
⑥その他	3 (2.0%)

※回答者は144名に占める割合

□表10 必要とされている支援: 子どもの年齢状況別 (複数回答可)

子育ての状況 (世帯数)	①保育・学校	②就労	③友達・仲間づくり	④移動手段	⑤住まい	⑥その他
・乳幼児のいる世帯 (79)	51 (65%)	34 (43%)	36 (46%)	31 (39%)	36 (46%)	1 (1%)
・3～5歳のいる世帯 (53)	30 (60%)	26 (49%)	22 (42%)	13 (25%)	14 (26%)	—
・小学生のいる世帯 (41)	22 (54%)	15 (37%)	16 (39%)	15 (37%)	11 (27%)	1 (2%)
・中学生のいる世帯 (7)	2 (29%)	6 (87%)	1 (14%)	1 (14%)	3 (43%)	1 (14%)
・高校生のいる世帯 (1)	—	1 (100%)	—	—	—	—

※割合は、各年齢状況の世帯数に占める割合。 兄弟姉妹などで重複している世帯あり。

□表 11 必要とされている支援：被災状況別（複数回答可） ※割合は、各『被災の状況』の世帯数に占める割合

被災の状況	①保育・学校	②就労	③友達・仲間作り	④移動手段	⑤住まい	⑥他
・罹災・避難証明の対象 (53)	22 (42%)	27 (51%)	17 (32%)	21(40%)	13(25%)	2 (4%)
・対象外（一部損壊を含）(88)	57 (65%)	35 (40%)	46 (52%)	31 (35%)	37 (42%)	1 (1%)
・不明(3)	—	2 (67%)	1 (33%)	1 (33%)	3 (100%)	—

## ■6) 利用者アンケートの自由記述より

Q1：今後、どのような支援があったらいいなと感じていますか。

### ●情報

- ・被災地情報や、沖縄での生活や風習の情報がほしい。
- ・地域に根付いた情報と交流があると、中期的な展望がもてるのではないかと、思います。皆日々、迷いの中にいて、いつまで沖縄にいられるか、いつ帰れるか、お金は、仕事は、と。
- ・土地勘が無いので、地元の方が作った子育て本はとてもたすかりました。
- ・近隣の情報・地図が欲しい。パート情報・学童について
- ・一時保育や自転車などの移動。費用に掛からない住まい。
- ・引っ越ししてきたばかりでわからない
- ・住居の確保、支援、保育園への入園助成など。就労先の紹介などがあるとたいへんありがたい。
- ・情報の共有提供、病院や地域の紹介

### ●仲間・交流

- ・子育てされているお母さん同士の交流ができれば嬉しい
- ・対象外で避難してきているのでとても心苦しく、時に寂しく思うこともある。
- ・避難してきた方々との連絡、連携作り。
- ・子供向けのイベント等あれば嬉しい。
- ・同じ年の友達と交流させたい。
- ・子育て支援センターなど利用したい

### ●保育

- ・学童支援、学費の減免・免除
- ・行きたい保育園に空きがない。認可園でなくとも簡易保育をして下さる方などいたら助かります。
- ・保育料 ・預かりの件

### ●就労

- ・就労を希望しているのですが、子どもが小さいので保育園情報があればと思います。
- ・保育所が決まらないと仕事を探せない面。

### ●移動

- ・車
- ・バスの利用をしやすくして頂けたらありがたいです。
- ・タクシー・バスの割引
- ・車が無く不自由。コミュニティバスの充実と子どもの送迎システムがあれば良いと思う。
- ・子どもがいると移動手段に困るので、何かあると大変助かります。

### ●病院

- ・病院の場所（小児・歯科） ・病院の情報。

### ●住まい

- ・転居の物件探し
- ・実家に部屋が無いのでプライバシーが無く住まいが悩みの種。主人は残っているため、二重生活を強いられている。

### ●その他

- ・子どもの食事（ホテル滞在にて、大人の分しかない）
- ・自主避難の場合でもな何か手当があると有難いです。子どもの危険は関東であっても変わらないと思います。
- ・GW期間中に沖縄に下見。6月はじめから沖縄に滞在。今のところ戻る予定はない。

## Q2：メッセージをお寄せください。

- ・ういずさんが活動停止されたのが、とても残念です。今までお疲れ様でした。書籍とても助かります。
- ・本を提供して頂きありがとうございます。今後、生活する上で必要な資料だと思いました。
- ・この企画をして頂きありがとうございます。励みになります。
- ・沖縄に来て、西原町に来てよかったなあと思います。これから一生懸命頑張っていきたいです。
- ・友達がいたため沖縄を選んだが、現在同じ環境にいる友人はいません。この本を利用して生活に役立てたい。
- ・3月から避難しており、もう少し早く情報がもらえれば助かりました。特に日常生活品や、支給していただけるものが分かれば実費を抑える事が出来たと思います。一か所に連絡すれば市や関係各所に情報が共有・公開され、もっと適切な援助が受けられるシステムの構築を望みます。
- ・今回このような支援プロジェクトを行っていただきまして感謝致しますが、沖縄に避難してきて3ヶ月以上過ぎます。避難してすぐにこのような本等があればもっと心強かったかもしれませんが、今後沖縄で生活していく中で参考にさせていただきます。
- ・着のみ着のまま避難したので何もありません。よろしくおねがいします。
- ・皆、困っている事を相談できるとまたは、してもどうにもならない、と思っているふしがあります。でも、ぜひ要望を出すように私も伝えます。

### 【原発関連】

- ・食品の放射能測定など自治体で行ってもらえたらと切実に願っています。
- ・沖縄について知らないまま避難した為どんな情報もありがたい。今後も情報提供をお願いしたい。
- ・放射能汚染が広がり沖縄県での生活も長くなると決心し始めている。自立のために車の免許取得したい
- ・自費で土壌検査をしました。エリア内なのに（埼玉）全く支援がなく不満です。
- ・自主的に沖縄に来た方も暖かく受け入れてほしい。
- ・被災県外の母子にもこのような支援をして下さってありがたい。居住のサポートもあればとても嬉しいです。
- ・少しの間でも安全な沖縄に来て嬉しいです。こういう支援があつて更にありがたいです。

### 【バスマップ】

- ・放射能が心配で沖縄に来ました。移動手段がないためバスマップ等いただけありがたいです。
- ・車が無いのでバスマップ助かります。
- ・親切にさせていただいて感謝しています。バス路線図、助かります。ありがとうございます

### 【その他】

- ・ゴミ袋が銘苅庁舎まで行かないともらえず不便です。イベントついで等でいただけると助かります。
- ・ハローワークは、これから時間を見て足を運びます。
- ・早く気候に慣れたい。
- ・戸惑いもありますが、楽しく生活させて頂いています。
- ・長期滞在できるか家族で検討中です。
- ・沖縄県の方々には、このように親切に温かく迎え入れて頂き心から感謝を致しております。島の皆様の心の優しさに日々驚きと感激で胸がいっぱいになります。少しでも恩返し出来るよう、努力していきたいと思っております。今後ともよろしくお願い致します。
- ・助けが少しでもあると気持ちの支えになります
- ・悩みながらの避難生活このようなサポートがとても助かります。ありがとうございます。
- ・今後の沖縄生活に役立つ本をありがとうございます。
- ・このような本を無料でいただけ本当にありがたいです。助かります。
- ・これからの子育てに役立てさせていただきます。
- ・情報誌を頂ける事をとてもありがたく思います。
- ・とても心強いです。助かります。
- ・情報のないなか、本をありがとうございます。
- ・貴重な本や資料をいただけ大変助かります。
- ・子ども支援プロジェクトとつてもたすかります。

他にも、たくさんの

『ありがとうございます！』の  
メッセージをいただきました。

## ■ 7) 市町村社協の『提供状況報告書』より

### ★配付対象の方の声や様子から気づいたこと

・今回のこのプロジェクトをきっかけとして、対象者の近況を伺うことができ良かったです。沖縄に長期滞在を予定している方々が多く、「沖縄を少しでも知っていきたくて、このような提供があると、とても助かります。ありがとうございます」との声が多くありました。最近では生活が落ち着き、県営住宅から民間アパートへ移る方もいて、少しずつ沖縄での生活に慣れてきている様子です。

#### 【交流・仲間づくり】

- ・避難されている方との交流会を計画している。
- ・交流会を実施した。
- ・ボランティアの方が企画したイベントで配付した。参加者のほとんどが那覇市在住で、「那覇市社協の交流会でもらった」との声が多かったです。
- ・今回配布した方は全員子育て中の方でした。「とても参考になります」との声が多かったです。
- ・地域の子育てサロンの情報を提供したりしながら、子育て中の沖縄の方と交流の場を活用することも大事だと感じました。
- ・今後の生活や実家が手狭な中で同居しているので住居の悩みを抱えている方もいました。
- ・同じく避難している子どもを持つ母親との交流を望む声もありました。

■【交流会の開催】那覇市社協、豊見城市社協、宮古島市社協（平良市所）で実施。八重瀬町社協、南城市社協、西原町社協で実施予定。

■【ボランティア団体やNPO、地域団体による交流会や寄付の実施への連携・協力】

糸満市社協、石垣市社協、うるま市社協

■【自治会や子育て支援センター等が交流会を実施・情報提供】本部町社協、名護市社協、読谷村社協

#### 【移動】

- ・移動の問題が大きい。レンタカーを低額で利用できる等車を長期的に借りる手立てが必要とされている。
- ・車の免許取得を希望されている方が多く、託児所付きの教習所マップなどがあれば教えてほしいという声がありました。

#### 【住まい】

- ・住まいに関する不安。好意で入居できた団地にいつまで団地にいられるか不安。またアパマンショップで住まいの相談をしてる方もいる。

#### 【情報】

##### ●地元（出身地）の情報

- ・福島県出身の方が、地元の情報が少ないと言われていた。

##### ●沖縄の情報

- ・当面住む方が多いので、観光情報等が喜ばれていた。
- ・沖縄の地名が解らないので、振り仮名があるとありがたいと言われた。沖縄の方言の紹介があったらいいと思った。
- ・避難先（沖縄の地元情報）の情報はとても貴重。観光BOOKとは違うので生活していく上での必要な情報がほしかった（子育てなどの）。
- ・「助かります」とのことでした（情報がほしいように感じました）

#### 【子育て支援】

- ・子育て中の方より、体調不良の際に子育てをサポートしてほしいという要望があり、村内の子育てサポーターの紹介と、村内にある『親子つどいの場』を紹介した。
- ・子育て中の方がほとんどで、幼稚園等の情報誌や観光情報誌が今後も活用できるので喜ばれていた。
- ・ポンポンおきなわマタニティ&子育てお役立ちブックは産婦人科一覧になっていて情報が得られ助かることでした。
- ・沖縄に来て熱中症になってしまった子どもさんもいたので、健康面でのサポート情報（熱中症対策、ハブ・クラブ・食中毒等）

#### 【その他】

- ・被災地以外から自主避難されてきた方より、ほとんど支援がないので、いろいろ支援してほしいとの声。
- ・配布時期について、もう少し早く行ってもらえたら良かったとのこと。
- ・実家に避難している方も支援を受けられ、大変喜んでいました。